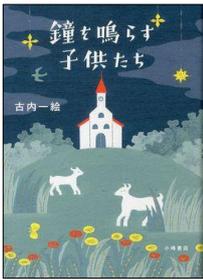


高校生へのおすすめ本



書名：鐘を鳴らす子供たち

著者：古内 一絵／作

出版社：小峰書店

出版年：2020年

あらすじ：放送劇は、物語は、きっと祈りなのだ。敗戦後の混乱期。突然、ラジオドラマに出演することになった小学生たちの、戸惑いと奮闘を描く。NHKの連続放送劇「鐘の鳴る丘」をモチーフとした物語。



書名：江の島ねこもり食堂

著者：名取 佐和子／著

出版社：ポプラ社

出版年：2017年

あらすじ：江の島に「ねこもりさん」と呼ばれる女たちがいた。それは島の猫の世話をするという、とある食堂の隠れた仕事。1915年のすみゑから、2017年の麻布まで。ねこもりとして生きた女たちの人生を描く。



書名：ハリネズミの願い

著者：トーン・テレヘン／著，長山 さき／訳

出版社：新潮社

出版年：2016年

あらすじ：自分のハリが大嫌いで、つきあいの苦手なハリネズミが、誰かを招待しようと思いたち、招待状を書き始める。でも、手紙を送る勇気が出なくて…。臆病で気むずかしいハリネズミに友達はできるのか？深い孤独によりそう物語。



書名：世界からコーヒーがなくなるまえに

著者：ペトリ・レップアネン／著，ラリ・サロマー／著，セルボ貴子／訳

出版社：青土社

出版年：2019年

あらすじ：大量消費と気候変動のせいで、私たちが今までのようにコーヒーを飲める日は終わりを迎えつつある。コーヒーを次世代にも残すために何をすべきなのか。コーヒーの未来を、また食の未来を考えるための一冊。見返しに地図あり。



書名：ぼくたちは幽霊じゃない

著者：ファブリツィオ・ガッティ／作，関口 英子／訳

出版社：岩波書店

出版年：2018年

あらすじ：アルバニアからイタリアへ。ヴィキは、母と妹と共に命がけで海を渡った。ところが待っていたのは、泥地のバラック生活。それが不法移民の現実だった。どんな困難にも負けず、新しい人生を切り開こうとする少年と家族の物語。



書名：彼方の友へ

著者：伊吹 有喜／著

出版社：実業之日本社

出版年：2017年

あらすじ：平成の老人施設でまどろむ佐倉波津子に、「乙女の友・昭和十三年新年号附録 長谷川純司作」と印刷された可憐な箱が届く。昭和初期から現在へ。雑誌の附録に秘められた想いとは。

	タイトル	著者名	出版社
1	キリン解剖記	郡司 芽久／著	ナツメ社
2	恐竜まみれ 発掘現場は今日も命がけ	小林 快次／著	新潮社
3	脱プラスチックへの挑戦：持続可能な地球と世界ビジネスの潮流	堅達 京子／著, NHK BS1スペシャル取材班／著	山と溪谷社
4	南極ではたらく かあちゃん、調理隊員になる	渡貫 淳子／著	平凡社
5	紛争地の看護師	白川 優子／著	小学館
6	天文学者が、宇宙人を本気で探しています！ 地球外知的生命探査<SETI>の最前線	鳴沢 真也／著	洋泉社
7	深海でサンドイッチ 「しんかい6500」支援母船「よこすか」の食卓	平井 明日菜／著 上垣 喜寛／著	こぶし書房
8	ハトはなぜ首を振って歩くのか	藤田 祐樹／著	岩波書店
9	スイカのタネはなぜ散らばっているのか タネたちのすごい戦略	稲垣栄洋・著 西本真理子・絵	草思社
10	極北へ	石川 直樹／著	毎日新聞出版
11	江の島ねこもり食堂	名取 佐和子／著	ポプラ社
12	ハリネズミの願い	トーン・テレヘン／著, 長山 さき／訳	新潮社
13	人はなぜ星を見上げるのか ：星と人をつなぐ仕事	高橋 真理子／著	新日本出版社
14	クモの糸でバイオリン	大崎 茂芳／著	岩波書店
15	愉快！痛快！アラスカ暮らし	河内 牧栄／著	誠文堂新光社
16	ボニンブルーのひかり	白石 まみ／著	河出書房新社
17	春や春	森谷 明子・著	光文社
18	レッド・フォックス カナダの森のキツネ	チャールズ・G・D・ロバーツ・作 桂 宥子・訳 チャールズ・リビングストン・ブル・画	福音館書店

沖縄県立図書館



わからないことがあったら
きいてね！！

開館時間 9：00-20：00

休館日 毎週火曜日・年末年始・特別整理日

電話番号 098-894-5858

HP <https://www.library.pref.okinawa.jp/>



図書館HP